

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

| | |
|---------|----------------------------------|
| 団 体 名 | 公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 |
| 施 設 名 | 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 |
| 助成対象活動名 | “「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ” 行動計画 |
| 助 成 期 間 | 5 (年間) |
| 内 定 額 | 63,066 (千円) |

事業概要

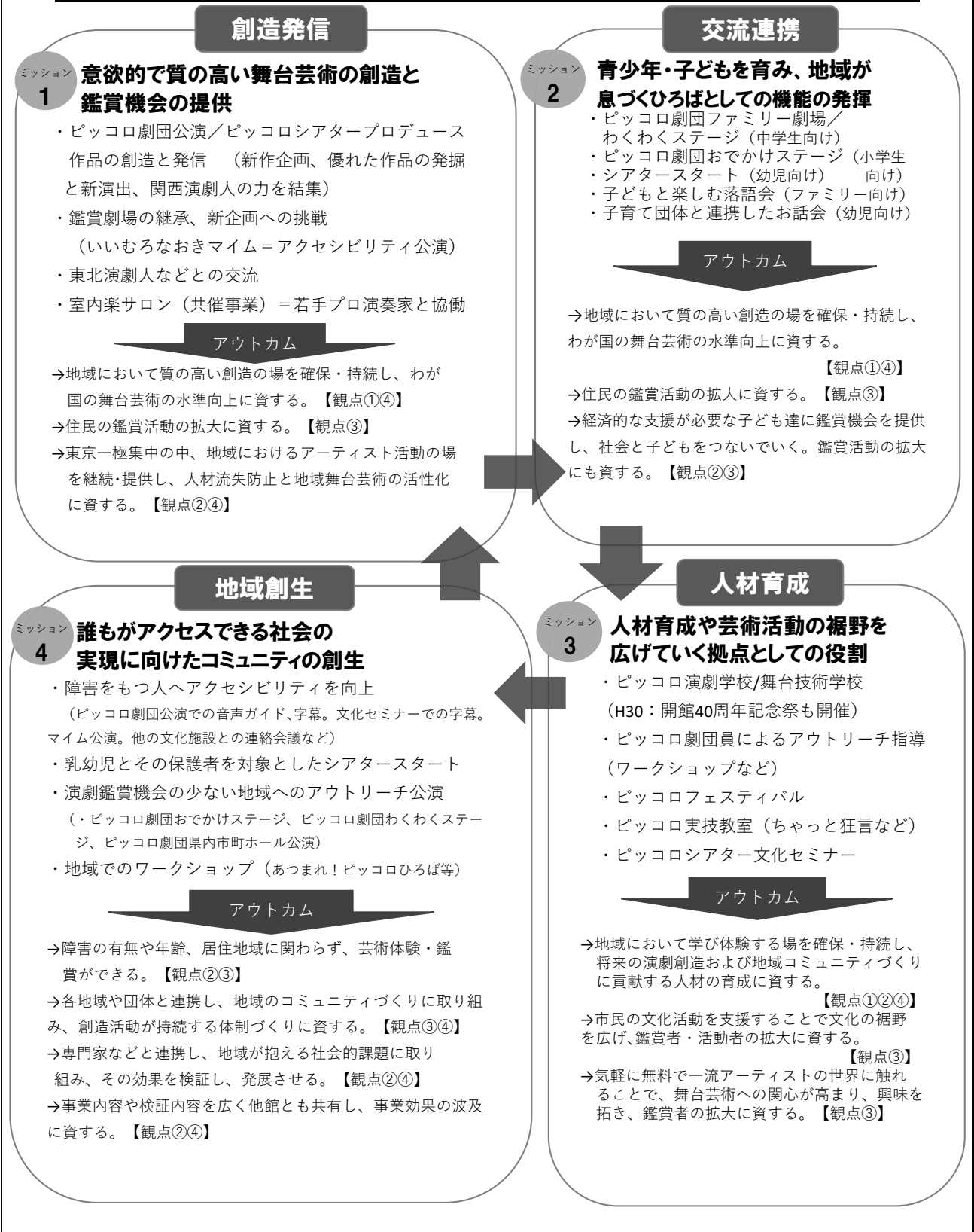
(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

※ 1から3を踏まえ、全体図(概念図)を作成してください。また、図中に、必ずアウトカムを記載してください。

※ 5年間を通した事業名を定めてください。

（事業名） “「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ”行動計画



(2) 平成30年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|--|--|--|----------|--------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 兵庫県立ピッコロ劇団 第61回公演 「蒲団と達磨」 | 7/18(水)、19(木)、 20(金)、21(土)、22(日) | 演目＝「蒲団と達磨」／スタッフ： 作・演出＝岩松了（ピッコロ劇団代 表）ほか／出演＝森好文ほかピッコロ 劇団員 | 目標値 | 1,728人 |
| | | ピッコロシアター 大ホール | | 実績値 | 1,441人 |
| 2 | 兵庫県立ピッコロ劇団 第62回公演 「小さなエイヨルフ」 | 11/2(金)、3(土)、4 (日)、6(火)、7(水) | 演目＝「小さなエイヨルフ」／スタッ フ：作＝イプセン、演出＝鶴山仁（文 学座）ほか／出演＝岡田力ほかピッコ ロ劇団員 | 目標値 | 1,728人 |
| | | ピッコロシアター 大ホール | | 実績値 | 1,004人 |
| 3 | 兵庫県立ピッコロ劇団 第63回公演 ピッコロシアタープロデュース 「マンガの虫は空こえて」 | (H31) 2/15(金)、16(土)、 17(日) | 演目＝「マンガの虫は空こえて」／ス タッフ：作＝島守辰明（ピッコロ劇団 員）、演出・脚本監修＝岩崎正裕（劇 団太陽族）／出演＝三坂賢二郎ほか ピッコロ劇団員 他 | 目標値 | 2,400人 |
| | | 兵庫県立芸術文化セン ター阪急中ホール | | 実績値 | 1,755人 |
| 4 | ピッコロ劇団ファミリー劇場 「さらばドラキュラ」 | ①8/4(土)・5(日) ②12/15(土)・16(日) | 演目＝「さらばドラキュラ」／スタッ フ：作＝早船聡、演出＝平井久美子 (ピッコロ劇団員)／出演＝堀江勇氣ほ かピッコロ劇団員、オーディションに よる子どもたち(②のみ) | 目標値 | 2,592人 |
| | | ①ピッコロシアター大ホール ②兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール | | 実績値 | 2,436人 |
| 5 | 兵庫県立ピッコロ劇団 おシアターVol. 34 「umami」 | 4/6(金)、7(土)、 8(日) | 演目＝「umami」／スタッフ：作＝ 早船聡、演出＝吉村祐樹（ピッコロ劇 団員）／出演＝菅原ゆうきほかピッコ ロ劇団員 | 目標値 | 480人 |
| | | ピッコロシアター 中ホール | | 実績値 | 442人 |
| 6 | 兵庫県立ピッコロ劇団 おシアターVol. 35 | (事業を中止、変更申請承認) | | 目標値 | 480人 |
| | | | | 実績値 | |
| 7 | ピッコロシアター鑑賞劇場 いいむろなおき マイムカムパニー 「オリンピアの夢」 | 10/6(土)、7(日) | 演目＝「オリンピアの夢」／作・演出＝ いいむろなおき／出演＝いいむろなおき カムパニー | 目標値 | 650人 |
| | | ピッコロシアター 大ホール | | 実績値 | 739人 |
| 8 | SENDAI座☆プロ ジェクト2018 「十二人の怒れる男」 | 11/9(金)、10(土)、11(日) | 演目＝「十二人の怒れる男」／作＝レジ ナルド・ローズ、翻訳・演出＝宮島春 彦／出演＝樋渡宏嗣ほか | 目標値 | 240人 |
| | | ピッコロシアター 中ホール | | 実績値 | 292人 |
| 9 | ピッコロシアター鑑賞劇場シアタースタート くわえ・ぱべっとステージ 「かくれんぼしてるの だ～れ」 | 5/10(木) | 演目＝「かくれんぼしてるの だ～ れ」／作・演出・出演＝つけくわえ | 目標値 | 200人 |
| | | ピッコロシアター 中ホール | | 実績値 | 182人 |
| 10 | ピッコロ演劇学校 | 4/25(水)～ (H31) 3/10(日) | 本科・研究科(各のべ約90講義)／中間発 表会10/27(土)28(日)、11/3(土)4(日) ／合同卒業公演3/9(土)10(日) | 目標値 | 60人 |
| | | ピッコロシアター | | 実績値 | 51人 |
| 11 | ピッコロ舞台技術学校 | 4/25(水) ～(H31) 3/10(日) | のべ108講義／中間発表会 10/27(土)28(日)、11/3(土)4(日) ／合同卒業公演3/9(土)10(日) | 目標値 | 30人 |
| | | ピッコロシアター | | 実績値 | 30人 |
| 12 | ピッコロシアター開館40周年記 念祭「いつもここから、これ からもずっと～地域と生きる 劇場を目指して～」 | 8/11(土・祝) | 体験型事業（舞台体験ひろば、ワーク ショップなど）／記念シンポジウム (出演：岩松了氏（ピッコロ劇団代 表）、平田オリザ氏ほか) | 目標値 | 600人 |
| | | ピッコロシアター | | 実績値 | 800人 |
| 13 | 2018ピッコロフェスティバル | 7/24(日)～9/4(土) | 県民参加企画（演劇（小・中・高、大 学・一般）、バレエ・モダンダンスほか）／ 地域団体連携企画（人形劇フェスタ、パリア リコンサートほか）など | 目標値 | 8,000人 |
| | | ピッコロシアター | | 実績値 | 5,886人 |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----------------|---|---|--|----------|------------------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 14 | あつまれ！ピッコロひろば | 5/7(月) ～(H31)3/16(土) | ピッコロ劇団員2～5名が県内各地 (主に小学校)に出向き行う、演劇表現ワークショップ。24回開催。 | 目標値 | — |
| | | 県内12箇所で開催 | | 実績値 | 755人 |
| 15 | おでかけステージ 「星のキャンタータ」 | 10/3、4、16、18、24 | 小学生を対象にした演劇舞台普及事業。3小学校の体育館とともに尼崎市 内2小学校向けにピッコロシアター大 ホールで開催。演目＝「星のキャンター タ」 | 目標値 | 8小学校 |
| | | ピッコロシアター及び 県内3小学校 | | 実績値 | 5小学校 (2,613人) |
| 16 | 中学生のための演劇鑑賞 体験事業 ピッコロわくわくステージ 「さらばドラキュラ」 | ①5/23～6/1・11/21～ 29②6/13③6/16 | 中学生を対象とした演劇舞台普及事 業。ピッコロシアターで5～6月・11 月に、県内の西播磨地域で6月に開 催。演目＝「さらばドラキュラ」 | 目標値 | 6,000人 |
| | | ①ピッコロシアター大ホール ②たつの市総合文化会館 ③宍粟市山崎文化会館 | | 実績値 | 5,660人 |
| 17 | ピッコロシアター文化セ ミナー<93><94> | <93>6/30(土)／ <94>10/20(土) | 内容＝<93>：岩松了さん(兵庫県立 ピッコロ劇団代表)に聞く「日常に在る演 劇」／<94>：通崎睦美さん(木琴奏者) に聞く「1935をめぐって」 | 目標値 | 632人 |
| | | ピッコロシアター 大ホール | | 実績値 | 692人 |
| 18 | ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席へ行こう！ 「子どもと楽しむ落語会」 | (H31)3/17(日) | 内容＝お囃子体験、落語の楽しみ方、落 語三席(「花筏」、「寿限無」、「狸の賽」)／ 出演＝桂吉弥、桂弥っこ、桂ひろば | 目標値 | 370人 |
| | | ピッコロシアター 大ホール | | 実績値 | 391人 |
| 19 | ピッコロシアター実技教室 「ちゃっと！狂言」 | 7/26(木)～29(日) | 講師＝大蔵流狂言方 善竹隆司・善竹隆 平／主な内容＝狂言についての解説、台 本読み・所作の稽古、成果発表会(演目＝ 「土筆」「口真似」) | 目標値 | 35人 |
| | | ピッコロシアター | | 実績値 | 26人 |
| 20 | バリアフリー対応 | ①6/30(土)文化セミナー／ ②7/21(土)劇団公演「蒲団 と達磨」／③8/5(日)ファミ リ劇場／④10/6(土)鑑賞 劇場「オリビ7の夢」／⑤ 11/30(金)わくわくステージ | ①聴覚障害者の鑑賞サポート (字幕、手話ほか) ②聴覚障害者の鑑賞サポート (ポータブル字幕器貸出ほか) ③視覚障害者の鑑賞サポート (音声ガイド、点字チラシほか) ④聴覚障害者の鑑賞サポート (解説パンフレットほか) ⑤視覚障害者の鑑賞サポート (音声ガイド、点字チラシほか) | 目標値 | — |
| | | ピッコロシアター 大ホール | | 実績値 | 54人 |
| 平成30年度の目標値、実績値 | | | | 目標値 | 26,225人 |
| | | | | 実績値 | 25,249人 |

【妥当性】

自己評価

(1) 事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当劇場では、4つのミッションに基づき計画どおり事業を推進。

1) 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供【創造発信】

ピッコロ劇団は7事業を実施（本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1、おでかけステージ5小学校、わくわくステージ43中学校）。上質な作品の上演を通じて地域における演劇鑑賞機会を提供、演劇鑑賞人口の拡大に努めた。劇団員によるワークショップや地域での演劇指導などを通じて舞台芸術に広く親しんでもらう機会提供など、県立劇団ならではの活動の充実に努めた。

2) 青少年・子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮【交流連携】

シアタースタート（乳幼児・家族）82人、あつまれ！ピッコロひろば（小学生）755人、おでかけステージ（小学生）2613人、わくわくステージ（中学生）5660人など、対象の世代毎に特色ある公演を実施。企業や民間NPOと連携し、経済的支援が必要な家庭や子ども食堂を利用する子どもたち延べ83名をピッコロ劇団ファミリー劇場へ招待。

3) 人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割【人材育成】

演劇学校本科32名・研究科15名、舞台技術学校26名が修了、舞台芸術活動を通して地域づくりに貢献できる人材の育成を推進。ピッコロシアター開館40周年記念祭では、地域と共に歩んできた劇場として、次代に向けた出発を期してのシンポジウムなどを開催、約800名の来館者を得て地域の社会基盤の一つとしての認識を新たにした。またピッコロ劇団による高校・大学等での演劇や表現力向上の指導、子ども向けワークショップ、体験型実技教室など、演劇の力を活かした人材育成を推進。

4) 誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生【地域創生】

ピッコロ劇団ファミリー劇場での音声ガイド付き公演や、本公演での字幕、文化セミナーでの字幕・手話通訳、オリンピック史を題材としたパントマイム公演など、アクセシビリティ向上事業を実施。初めて「わくわくステージ」に盲学校の団体鑑賞を得るとともに、劇場関係者の参加を得て、劇場やホールなどが障害ある方への理解を深め、今後の事業運営に資するべく情報交換会を開催。また、地域社会に馴染めない外国人を対象に社会包摂を目的としたワークショップ（日本劇団協議会事業への協力参加）では、調査の専門家と連携して、効果の見える化、数値化を試みている。

(2) 助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

1 文化的意義

平成30年度は、①劇団代表の岩松了が自身の代表作「蒲団と達磨」※を30年ぶりに演出上演、②鶴山仁（文学座）演出、近代演劇の父イプセンの名作「小さなエイヨルフ」を上演、③関西演劇界を牽引する岩崎正裕（劇団太陽族）演出、関西で活躍する俳優陣出演も得て兵庫/宝塚で育った手塚治虫の初期3作品を原作とした「マンガの虫は空こえて」上演など、現代を代表する演劇人による名作の発掘や地域の魅力を再発見する創作舞台の実現に尽力。

※参考：1989年第33回岸田國土戯曲賞受賞

2 社会的意義

乳幼児・家族（シアタースタート）～幼児・小学生（あつまれ！ピッコロひろば、おでかけステージ等）～中学生（ピッコロわくわくステージ）～高校生・大学生（劇団公演、学校演劇部活動への協力等）～ファミリー（ファミリー劇場、実技教室等）と、乳幼児から大人まで幅広い世代に対しバラエティに富んだ事業を提供。また、音声ガイドや字幕、手話通訳等を通じて障害者のアクセシビリティ向上を推進。

3 経済的意義

舞台芸術の創造発信やその鑑賞機会においても首都圏集中が進む中、劇団・学校を附設する劇場が地域（兵庫/尼崎）に存在することで、関西地域のニーズに密着した活動・運営を展開。舞台製作に当たり、旅費や滞在費、運搬費など軽減（首都圏への依存を抑制）しつつ、その分出演料や指導料など地域の作り手に活躍の場を与え育てる効率的な投資が可能。

【有効性】

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

地域における舞台芸術の拠点施設として、40年の歴史のもとに培ってきた劇場・劇団・学校(演劇・舞台技術)という強みを活かしつつ、地域とともに持続的に演劇を中心とする芸術文化の振興を図りながら「地域が芸術でつながり誰もが生きやすい社会をつくる」を目指した事業を進めている。現在、目標の達成に向けて劇場・劇団・学校事業は計画に沿って進捗している。

また、日本劇団協議会事業“やってみようプロジェクト”に協力して、共生社会実現に向け地域に居住する外国人対象のワークショップを兵庫県小野市で実施しているほか、ファシリテーター対象のDIEワークショップのピッコロシアターでの開催にも協力参加している。

なお、施設の一部改修について国交付金(地方創生拠点整備事業交付金)にかかる予算措置が得られ、舞台美術製作を行う工房の整備や大ホールのエレベータ設置が可能となったことから、人材育成につながる舞台技術学校の機能強化や館施設のアクセシビリティ向上を図るべく作業に着手しており、完成後の効果が期待される。

| アウトカム | 目標 | 指標 | 5年間の目標 | H30年度の実施状況 |
|---|--|---------------------------------|---------------------------|---|
| (A) 地域において質の高い創造の場を確保・持続 | 安定的な劇団公演の継続：本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1～2、おでかけステージ、わくわくステージ | ピッコロ劇団公演事業数の確保と充実 | 6～7事業/年の事業実施 | 10事業を実施(本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1、おでかけステージ、わくわくステージ、パントマイム劇1、SEND A 1座公演1、シアタースタート1) |
| (B) 住民の鑑賞活動の拡大 | | | 95%以上の高水準の維持 | 満足度平均94.8% |
| (C) 地域におけるアーティスト活動の場の提供による人材流失の防止と地域舞台芸術の活性化 | 演劇公演入場者数の増(劇団公演、鑑賞劇場) | 公演事業の入場者数の増 | 15,000人/年 | 15,351人 |
| (D) 経済的な支援が必要な子ども達に企業助成等により鑑賞機会を提供、社会と子どもをつなぎ、鑑賞活動を拡大 | 助成企業の拡大 | 企業助成による鑑賞者数の増 | 400人/年 | 253人(大阪ガス180、日興油脂69、子ども若者応援クーポン4) |
| (E) 将来の演劇創造および地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成 | 演劇学校、舞台技術学校の持続的な事業展開 教育機関と連携：おでかけステージ、わくわくステージ、ピッコロひろば、劇団員アウトリーチ指導、インターンシップ | 定員を確保し、人材数を累増 連携する学校数の増 | 5年間で卒業生計400人 40校/年との連携 | 演劇学校：本科32、研究科15、計47 舞台技術学校：26/合計73人 わくわくステージ43校 おでかけステージ5校 インターンシップ10校 トライやるウィーク11校 劇団アウトリーチ28校 |
| (F) 市民の文化活動を支援することで裾野を広げ、鑑賞者・活動者を拡大 | ピッコロフェスティバルの継続、室内楽サロン6の継続、実技教室2の継続 | 施設能力のもと可能な限りピッコロフェスティバル参加団体数を維持 | 95～100団体/年 | ピッコロフェスティバル参加98団体 室内楽サロン6回/実技教室4回 |
| (G) 気軽に一流アーティストの世界に触れることで、舞台芸術への興味を拓き、鑑賞者を拡大 | 文化セミナー一年2回の継続 | 文化セミナー開催数、参加者数 | 2回/年、350人/回 | 2回、339人・293人 |
| (H) 障害の有無や年齢など、居住地域に関わらない芸術体験・鑑賞機会の提供 | アクセシビリティ向上への試行 | バリアフリー事業実施数 | 2事業/年 | 5事業(公演)※パントマイム劇、文化セミナー、ファミリー劇場、「蒲団と達磨」、わくわくステージ「さらばドラキュラ」 |
| (I) 地域におけるコミュニティ再生などの活動に取り組む体制づくりの促進 | コミュニティ形成や社会的課題解決のためのワークショップ等を開催 | あつまれ!ピッコロひろば(子ども向けワークショップ)等の開催 | 20～30回/年 | あつまれ!ピッコロひろば24回 開館40周年記念祭(8/11開催：体験型事業、記念シンポジウム) 子どもと楽しむ落語会1回 |
| (J) 事業内容や検証内容を広く他館とも共有し、事業の効果を波及 | 先導的的事业について他館と内容・検証結果を共有する場の設定 | アクセシビリティ向上、連絡会議の開催 | H30以降も開催 | 劇場関係者との意見交換会(11/30開催) |
| (K) 専門家などと連携し、地域が抱える社会づくりに取り組み、効果を検証、発展 | 地域のコミュニティ創生貢献のための検討の場の設定 | ワークショップ、情報交換会等の開催数 | H30以降も開催 | 外国人対象のワークショップ(3日間) |

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
 アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

「(2) 平成30年度実施事業一覧」のとおり、ほぼ予定どおり劇場・劇団事業を実施した。(予定事業のうち「オフシアターVol.35」については、同様の効果が期待できる地域NPOとの連携事業(尼崎市民まつりでの市民交流行事)に代替したため、中止した。)

下表のとおり、当館の特性(開館以来40年培った地域でのネットワークや人的資源等)を活かして、年間を通して計画的かつ相乗的な効果が見込める事業運営に努めた。

例えば、①わくわくステージ～ファミリー劇場～わくわくステージ～ファミリー劇場と連続的な「さらばドラキュラ」公演。製作経費を押さえつつ、関心の広がりを用意したロングラン上演。②劇団代表岩松了自らの演出による初期代表作「蒲団と達磨」公演に際しては、ファンなどの関心を高めるべく本人が自ら語る文化セミナーを事前開催。③ピッコロシアター鑑賞劇場パントマイム公演「オリンピアの夢」、第62回劇団公演「小さなエイヨルフ」に関する事前広報としてのピッコロシアター40周年記念祭来場者向けのワークショップなどの開催。

また、鑑賞劇場でのSENDAI座☆プロジェクトとの共催事業(東北演劇人との交流としてSENDAI座☆プロジェクトが7度目のピッコロシアター公演)として上演した「十二人の怒れる男」が第73回文化庁芸術祭演劇部門優秀賞を受賞するなど、制作面で実りのある年となった。

こうした成果を得るとともに、計画よりも高い収益率となった公演・事業もある一方、計画どおりの収益率に達しなかった劇団公演等があることから、今後とも効率的な経費支出とともに、広報の工夫をはじめとした収入増を図る努力がさらに必要である。

| No | 事業名 | (実施期間) | | | | | | | | | | | | 予算(上段)/決算(下段) | | | | | |
|----|---|--------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---------------|------|---------|-------|--------|------|
| | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 収入 A | 支出 B | 収益率 A/B | | | |
| 5 | 兵庫県立ピッコロ劇団オフシアターVol.34「umami」 | ■ | | | | | | | | | | | | | | | 751 | 1,577 | 47.6 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1,052 | 1,560 | 67.4 |
| 9 | ピッコロシアター鑑賞劇場 シアタースタート くわえ・ばべつとステージ「かくれんぼしてるの だ〜れ」 | | ■ | | | | | | | | | | | | | | 99 | 224 | 44.2 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 86 | 175 | 49.1 |
| 16 | 中学生のための演劇鑑賞体験事業ピッコロわくわくステージ「さらばドラキュラ」 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | 0 | 18,384 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 17,869 | - |
| 4 | 兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場「さらばドラキュラ」 | | | | | | | | | | | | | | | | 4,746 | 26,603 | 17.8 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 4,158 | 21,883 | 19.0 |
| 17 | ピッコロシアター文化セミナー(93)(94) | | | ■ | | | | | | | | | | | | | 0 | 1,109 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 628 | - |
| 1 | 兵庫県立ピッコロ劇団 第61回公演「蒲団と達磨」 | | | | | | | | | | | | | | | | 4,410 | 13,267 | 33.2 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 2,519 | 9,954 | 25.3 |
| 19 | ピッコロシアター実技教室「ちゃつと！狂言」 | | | | | | | | | | | | | | | | 172 | 641 | 26.8 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 145 | 485 | 29.9 |
| 13 | 2018 ピッコロフェスティバル | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 857 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 738 | - |
| 12 | ピッコロシアター開館40周年記念祭「いつもここから、これからもずっと ～地域と生きる劇場を目指して～」 | | | | | | | | | | | | | | | | 15 | 2,840 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1,700 | - |
| 7 | ピッコロシアター鑑賞劇場 いいむろなおき マイムカンパニー「オリンピアの夢」 | | | | | | | | | | | | | | | | 1,756 | 2,727 | 64.4 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1,737 | 2,428 | 71.5 |
| 2 | 兵庫県立ピッコロ劇団 第62回公演「小さなエイヨルフ」 | | | | | | | | | | | | | | | | 4,536 | 13,977 | 32.5 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1,556 | 12,783 | 12.2 |
| 8 | SENDAI座☆プロジェクト2018 「十二人の怒れる男」 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 455 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 291 | - |
| 15 | おでかけステージ「星のカンタータ」 | | | | | | | | | | | | | | | | 2,151 | 8,174 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 2,181 | 5,640 | - |
| 3 | 兵庫県立ピッコロ劇団 第62回公演 ピッコロシアタープロデュース「マンガの虫は空こえて」 | | | | | | | | | | | | | | | | 7,200 | 23,672 | 30.4 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 3,983 | 21,373 | 18.6 |
| 18 | ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席へ行こう！「子どもと楽しむ落語会」 | | | | | | | | | | | | | | | | 506 | 801 | 63.2 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 503 | 715 | 70.3 |
| 14 | あつまれ！ピッコロひろば | | | | | | | | | | | | | | | | 828 | 1,280 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 854 | 849 | - |
| 10 | ピッコロ演劇学校 | | | | | | | | | | | | | | | | 6,232 | 13,645 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 6,771 | 9,968 | - |
| 11 | ピッコロ舞台技術学校 | | | | | | | | | | | | | | | | 3,850 | 9,292 | - |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 3,456 | 7,934 | - |

予算については補助交付申請時の額/決算については実績報告時の額(単位:千円、%)

【創造性】

自己評価

(1)事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

ミッション1：創造発信

(1) 劇場に付属するプロ劇団：兵庫県立ピッコロ劇団による、地域に根差した独創的かつ質の高い創作・公演活動

①劇団代表岩松了の初期代表作『蒲団と達磨』を自らが30年ぶりに演出上演。東京からの来場も多く、ピッコロ劇団俳優陣も高い評価を得たようである。

②イプセンの「小さなエイヨルフ」を鶴山仁（文学座）の独創的な演出で上演。

③世界的クリエイター手塚治虫の初期3作品を原作とした「マンガの虫は空こえて」を、関西演劇シーンを牽引する岩崎正裕（太陽族）の演出、関西で活躍する客演陣（8名）の参加も得て上演。

(2) 震災を契機とした東北との交流の継続。SENDAI座☆プロジェクトが「十二人の怒れる男」ピッコロ公演で文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。

(3) オリンピック史を題材とした いいむろなおきマイムカンパニー「オリンピアの夢」を創作。受付に手話通訳を配置するなどアクセシビリティにも配慮。

ミッション2：交流連携

(1) ピッコロ劇団によるファミリー劇場、わくわくステージ（中学生鑑賞体験事業）、おでかけステージ（小学校巡回公演）、おはなし会（幼児向き地域連携企画）を展開。

(2) 子どもたちに伝統芸能の素晴らしさを伝える「子どもと楽しむ落語会」「ちゃっと！狂言」や、乳幼児とその保護者を対象の「シアタースタート」の継続。

ミッション3：人材育成

(1) これまでの卒業生2,600名を超える演劇学校・舞台技術学校の運営、ピッコロ劇団員による教育現場などでのアウトリーチ活動を通して、地域における学び体験する場を確保・持続させ、地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成。

(2) ピッコロフェスティバルでは約1か月にわたり劇場施設を無料開放、市民の文化創造活動を支援して文化の裾野を広げ、鑑賞者・活動者を拡大。

ミッション4：地域創生

(1) ピッコロ劇団公演での音声ガイド付き上演、字幕付き上演など、舞台芸術を障害の有無にかかわらず楽しめるアクセシビリティ公演を推進。その経験を地域の他劇場等と共有。

(2) 民間企業などと連携し、経済的支援が必要な子どもたちなどに芸術鑑賞や体験機会を提供。

(3) 共生社会実現に向けたピッコロ劇団によるワークショップなどアウトリーチ活動を幅広く展開。

(参考1)

| 演目 | 上演だけにとどまらない独自の工夫 |
|--------------|--|
| 「蒲団と達磨」 | 観客が作品についての理解をより深められるよう、岩松了本人がピッコロシアター文化セミナーに出演して作品の面白さを語り発信。 |
| 「小さなエイヨルフ」 | 観客が作品についての理解をより深め公演への関心を高められるよう、市民講座や演劇ワークショップでの演劇創作体験などの参加企画を実施。 |
| 「マンガの虫は空こえて」 | ピッコロ劇団の活動拠点エリアでもある宝塚の地域文化団体や地元テレビ局との連携を通じたPRや地元の高校のコーラス部を合唱の場面に参加してもらうなど、地域と密着した舞台を創造。 |
| 「さらばドラキュラ」 | 音声ガイド付き鑑賞サポートを実施した後、上演にかかわるノウハウを学ぶミニレクチャー意見交換会を開催、各地の劇場関係者などの相互理解を深めてもらう取組を実施。 |

(参考2)

| 区分 | ピッコロ演劇学校 | ピッコロ舞台技術学校 |
|------|--|--|
| 概要 | 舞台づくりの楽しさや面白さを味わいながら、表現力や創造力を身につけるなど、将来の演劇創造者、地域に根差した文化活動リーダーを養成 | クリエイティブな地域文化のステージづくりと文化施設運営の活性化を図るため、舞台芸術を支える美術、照明、音響の舞台技術者を養成 |
| 授業 | 原則、毎週2回（火・木の夜間） 年間数回の特別講義及び約100講義 | 原則、毎週2回（水・金の夜間） 年間数回の特別講義及び約108講義 |
| 講師 | <ul style="list-style-type: none"> ■本科：主任講師 本田千恵子（ピッコロ劇団員）、助手 山田 裕（同）他 ■研究科：主任講師 島守辰明（ピッコロ劇団員）、助手 櫻村千晶（同）他 | <ul style="list-style-type: none"> ■美術コース：主任講師 加藤登美子（舞台美術家） ■照明コース：水野雅彦（㈱ハートス） ■音響コース：林哲郎（サウンド・ウッド・カンパニー代表） |
| 特別講師 | 別役実、岩松了、平田オリザ 他 | 山北史郎、服部基 |

【創造性】

自己評価

(2) 事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

1 公演・事業の満足度は高く、アンケート結果はいずれも90～95%前後。

2 広報媒体による発信として、定期的なプレスリリースに加え、公演形態・稽古スケジュールに応じた記者会見や稽古取材、個別インタビュー、新聞社訪問、劇団員等の在阪メディアへの出演。また地元FM局にピッコロシアター・ピッコロ劇団コーナーを運営。

3 (1) 劇団代表の岩松了が平成30年度兵庫県文化賞を受賞。ピッコロ劇団の活動に草創期から関わり、演劇創造発信活動を主導する等、兵庫の県民文化高揚への貢献が評価された。

(2) ピッコロ劇団公演との係わりの深い舞台美術家であり、舞台芸術学校講師でもある加藤登美子氏が第46回伊藤喜朔賞を受賞。劇団公演「小さなエイヨルフ」舞台装置について、画家ムンクのモチーフを表現しつつ、劇場空間に登場人物の内面を反映させた点が高く評価された。

4 こうした劇場として40年/劇団として25年の地域での活動は「開かれた劇場」としての評価を受け、学校現場等との連携・交流が積極的に図られてきた。毎年、小・中・高校、大学、企業、市町等からの要請を受け多くの劇団員を講師や指導者として派遣。他劇団や地域団体等の依頼を受けての演劇公演、放送等での外部出演も多数。地域における人材育成・地域連携・創作交流に幅広く寄与。

5 トライ・やるウィーク(中学生の就業体験)やインターンシップ(高校生、大学生、教職員等)での受入協力、劇場施設の団体見学・視察の受入なども多数。劇場・劇団の注目度は高い。

(参考1) 満足度アンケートから「大変満足」「満足」の比率

| | |
|-----------------------|-------|
| 鑑賞劇場（室内楽サロン、ピッコロ寄席ほか） | 98.5% |
| 文化セミナー | 94.6% |
| 実技教室（ちゃっと狂言、オペラ教室ほか） | 92.2% |
| 劇団公演 | 94.8% |
| 貸館利用者 | 93.1% |

(参考2)

| | |
|-------------|--|
| ホームページの利用状況 | 施設概要、利用案内、事業内容、劇団情報などを掲載し、広く情報発信。【アクセス件数】102,146件 |
| SNSの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 劇場ブログ「今日のピッコロ」 アクセス数 400～500件/日 劇団ブログ「稽古場ダイアリー」 アクセス数 200～300件/日 学校Instagram アクセス数 200～300件/日 全体フェイスブック（登録者数700名） アクセス数500～600/日 ツイッター アクセス数 1,500～1,600/日 |
| 定期刊行物の発行・配付 | 月間催し物案内（毎月）やピッコロ劇団後援会機関紙「into」を発行し（年4回、各4,000部程度）、来館者、近隣の公共施設や文化施設等に配布。 |

(参考3) 劇団員インタビューなど

| | |
|---------------------------------|-------|
| 語る聞く 日常描く静かな演劇（岩松了） | 読売新聞 |
| 編集委員インタビュー 日常に潜むドラマ描く（岩松了） | 神戸新聞 |
| ピッコロシアター開館40周年記念シンポジウム | 毎日新聞 |
| ひと探訪 表現することを生きる力に（本田千恵子（劇団員）） | 神戸新聞 |
| 編集委員インタビュー 誰もが楽しめる劇場模索（広報交流専門員） | 神戸新聞 |
| いろはにおやこ 聞かせて！あの子育て（木全晶子（劇団員）） | 神戸新聞 |
| ピッコロシアター開館40周年記念祭放映 | サンテレビ |

(参考4) 劇団員の主な派遣先

| 講師派遣等 | 35件 | 外部出演 | 31件 |
|--|-----|------|-----|
| 社会人／豊岡市、劇団高円養成塾、県自治研修所（行政特別研修）、県立教育研修所、キング醸造(株)、県立こどもの館（指導者対象講座） 高校・大学等／宝塚北高、伊丹北高、プール学院高、神戸鈴蘭台高、クラーク記念国際高校芦屋キャンパス、甲南女子大、近畿大、神戸松蔭女子学院、県立神出学園、県立山の学校 小・中等等／小部中（神戸）、建屋小（養父）、城西小（赤穂）など | | | |
| (外部出演例) 劇団高円第6回定期公演「ヤマトタケル誕生編」、空晴第17回公演「となりのところ」、にしきた音楽祭、薬物乱用防止運動兵庫大会、特殊詐欺啓発ビデオ（尼崎信用金庫）、加古川シテリオペラ・ジュニア「チェルキオ」第10回記念定期公演、岡山子ども未来応援プロジェクト「さよなら、ハロルド！」 | | | |

(参考5) 研修生受け入れなど

| | | |
|-------------------|-----|------|
| トライやる・ウィーク（中学生） | 11校 | 19名 |
| インターンシップ（高校生、大学生） | 10校 | 18名 |
| 視察等（高校、大学等） | 5団体 | 338名 |

【持続性】

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

- 1 兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）事業運営方針に基づき、これまでに蓄積してきた施設の強みや特色を発揮しつつ、設置者である兵庫県と連携し安定した運営基盤の確保を図り、地域特性やニーズへの対応を前進させる。劇場運営委員会などの指導・助言をいただきながら、本報告中「事業概要（1）事業計画の概要」に記載したミッションに沿う創作公演・人材育成・普及啓発事業など、兵庫県芸術文化振興ビジョンの実現“芸術文化立県ひょうご”に向けた歩みを継続していく。
 - 2 ミッション推進を通じた組織活動の持続的な前進に向け、内部組織は正規職員数※を維持（専門能力の高い職員の確保）しつつ、正規・非正規を問わず職員の能力向上、関係機関との連携、アウトソーシングの活用など、効果的・効率的な組織運営を図っていく。
- ※正規雇用率：平成28年度以降、56.5%（13人／23人）

【外部組織との連携】

- 1 教育機関（区市町教育委員会など）との連携
 - （1）小学校：演劇体験WS（あつまれ！ピッコロひろば）、鑑賞体験（おでかけステージ）
 - （2）中学校：職業体験（トライやる・ウィーク）、鑑賞体験（わくわくステージ）
 - （3）高校・大学：インターンシップ、見学、演劇指導やWS
- 2 劇場・音楽堂等間のネットワーク：阪神公立施設協議会（主宰：兵庫県芸術文化センター）、アクセシビリティ事業にかかわる連絡会議（主宰：当館）
- 3 兵庫県、尼崎市、地元文化団体との事業連携、地元企業等との連携や協力（子どもたちの劇場招待）
- 4 日本劇団協議会、兵庫県劇団協議会への参加。日本劇団協議会では共生社会実現のための外国人対象ワークショップを推進しており、ピッコロ劇団員が協力。兵庫県劇団協議会では令和元年8月に50周年合同公演の制作予定。
- 5 日本芸能実演家団体協議会（芸団協）や日本演出家協会との連携（関西地域でのシンポジウムやWS）

（参考1）

| 委員会名 | 設立目的 | 委員数（R1.6現在） |
|-----------|------------------------------|--|
| 劇場運営委員会 | 劇場・劇団全体の円滑な運営を図るための審議、調査研究 | 21名 舞台関係者（演劇、アマチュア・青少年、古典、ミュージカル、オペラ・音楽、舞台美術）9名、地元関係者（大学、コープこうべ、NPO、尼崎市、県）6名、マスコミ（NHK、神戸新聞）2名、県・財団3名、公募1名 |
| 劇団企画運営委員会 | 劇団公演や普及啓発事業など具体的な事業についての企画検討 | 11名 劇団代表、演出家、劇作家、大学副学長、新聞社編集委員、演劇ジャーナリスト、財団、県 |
| 劇団能力評価委員会 | ピッコロ劇団員の資質・能力を評価 | 7名 劇団代表、大学講師（舞台芸術関係）、演劇評論家、劇作家、演出家、新聞社編集委員 |

（参考2）

| 兵庫県芸術文化振興ビジョン及び兵庫県芸術文化協会の経営方針等 | |
|--------------------------------|---|
| 兵庫県芸術文化振興ビジョン（H27.3改定） | 基本目標を「芸術文化立県ひょうご」～芸術文化が暮らしに息づき、芸術文化で人や地域を元気にする社会の実現～に設定。そして基本方向を（1）芸術文化を創造・発信する（2）芸術文化の“場”を育て広げる（3）文化力を高め、地域づくりに活かす（4）みんなで支え、総合的に取り組む、と定める。 |
| 兵庫県芸術文化協会の経営方針等 | 経営理念・経営方針を“芸術文化の創造と交流、普及啓発及び学習機会の提供など多様な芸術文化活動を展開することにより、芸術文化の振興を図り、県民文化の向上に寄与するとともに、こころ豊かな人づくりに資する”と定めて事業運営を継続。 |

（参考3）ピッコロシアター事業運営方針

| | |
|------------------------|---|
| ①上質な演劇を創造し発信します | 専属のプロ劇団を持つ演劇の拠点劇場として優れた舞台作品の創造・発信／ファミリー劇場や学校公演など子ども・青少年向けの作品製作・発信／関西の演劇人材を結集したプロデュース作品の制作、関西の演劇創造の活性化 など |
| ②感動を共有できる“人と場”を育てます | ピッコロ演劇学校・舞台技術学校による地域の芸術文化活動を支える人材の育成／参加型のフェスティバルや実技教室、文化セミナーなど舞台芸術の創造と交流の場の拡大 など |
| ③演劇の力を活用して地域づくりを進めます | 舞台芸術を通して、高齢者・障害者・子育て世代など多様な方々の地域コミュニティへの参加の促進／表現力やコミュニケーション力を育むワークショップの実施や、教育現場での演劇の活用など、地域の未来を担う人材育成に貢献 など |
| ④幅広い参画と協働のもとに取り組みを進めます | 舞台芸術を支える多くの方々の参画のもと、行政・自治体、地域文化団体、大学等の教育機関、他の文化施設などとの協働を推進／阪神・淡路大震災時の経験をふまえ、東北との連携をはじめとした広域的な交流を促進 など |